

患者さんへ

当院では、下記の臨床研究を行っております。対象となる患者さんのデータを用いて行いますが、個人のお名前や個人を特定できる情報が公表されることは一切ありません。

ご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

研究課題名	社会的フレイルが集中治療室入室患者の生命および機能的予後に与える影響
研究責任者 (共同研究者)	遠藤 龍之介 高木 雄大、佐藤 聖真、請川 諒
研究目的と意義	当院では、社会的なつながりが不足しており、困窮している方でも積極的に受け入れる「断らない医療」を掲げており、医療やリハビリテーションも社会的支援の一つに掲げられています。社会的孤立状態を社会的フレイルと呼び、医療サービスの提供だけでなく、行政などの社会的な介入が必要とされています。一方で、十分な社会的な介入が受けられず、入院し日常生活に復帰することが難しい方が多く見受けられます。社会的フレイルを有する方が、どのようにして日常生活へ復帰できるようサポートすべきか、調査することは社会的意義がとて大きいと考えます。そこで、重症患者が入室する集中治療室において、社会的フレイルを有する方がどのような予後を迎えるのか、調査することを目的とします。
調査対象となる方 (該当期間)	2023年11月1日から2024年6月1日までの期間に、当院集中治療室（3階南病棟；HCU）へ入室し、主治医が救急科である患者のうち、在室中にリハビリテーションを実施した方
研究方法 (使用する情報)	電子カルテに記載のある診療記録を使用します。 <ul style="list-style-type: none">性別、年齢、入室に至った疾患名、入院期間、既往歴などの基本情報日常活動量や人間関係、住環境などの社会的情報握力や下腿周径などの理学療法所見
研究期間	2024年6月14日（倫理委員会による審査承認日）から1年間
個人情報の取り扱い	個人情報は厳正に管理し、利用する情報から氏名や住所などの患者さんを直接特定できる情報（イニシャル、生年月日、当院IDなど）は削除します。また、研究成果は学会や学術論文で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。
お問い合わせ先	この研究に関して新たに患者さんにいただくことや負担は特にありません。本研究への参加を辞退される場合は、いつでもご遠慮なく研究責任者までご連絡ください。参加を辞退されても患者さんが診療の上で不利な扱いをうけることはありません。 お問合せ先：津軽保健生活協同組合 健生病院 リハビリテーション科 研究責任者：遠藤 龍之介 電話番号：0172-55-7717
備考	